

研究のご協力をお願い

札幌麻生脳神経外科では下記の臨床研究を行います。皆様におかれましては本研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますよう、お願いいたします。

なお、本研究への参加を希望されない場合、または本研究に関するお問い合わせは、お手数をかけますが、当院連絡先までご連絡ください。

1. 研究名：

失行症の量的評価に向けた運動学的解析－健常者・失行症患者データを用いた予備的研究－

2. 研究の対象

研究期間中に当院に入院され、失行症状を認める患者
あわせて、当院職員等の健常成人

3. 研究期間

倫理委員会承認日の翌日から 2030 年 3 月 31 日

4. 研究目的

失行症とは、手足に力はあるのにうまく動かせず、「物を使う」「身振り（ジェスチャー）をする」といった目的のある動作がぎこちなくなってしまう状態です。日常生活では、道具の操作などに影響することがあります。現在よく使われている検査は、医療スタッフが動きを見て評価する方法が中心であり、軽い症状や境界的な症状による細かなぎこちなさまでは、数字として捉えにくいという問題があります。

本研究では、研究参加者にハンマーを打つ動作や身振り（ジェスチャー）をしてもらい、その様子をカメラで撮影してコンピューターで動きを詳しく分析をします。このようにして動き方を数値として表し、失行症の有無や程度を、より客観的に評価できる方法を確立できるかを検討します。

5. 研究方法

本研究では、研究参加者となる方に、いくつかの決まった手の動きをしていただきます。

具体的には、次の 5 つの動作を行っていただきます。

- ①実際にハンマーで釘を打つ動き
- ②ハンマーを持って、釘を打つまねをする動き
- ③ハンマーを持ったつもりで、釘を打つまねをする動き
- ④手を振る「バイバイ」の動作
- ⑤手招きをする「おいでおいで」の動作

これらの動作をしている様子をビデオカメラで撮影し、あわせてモーションキャプチャという機器を用いて、肩や肘など腕の関節の動きをコンピュータで詳しく解析します。

6. 研究に用いる試料・情報の種類

カルテ番号・年齢・性別・利き手・教育歴・診断名・合併症（既往歴）・発症形式・発症年月日・神経学的/神経心理学的所見をはじめとする評価結果・画像所見・入院年月日・手術年月日・手術所見・治療内容・入院時臨床経過・退院年月日・退院時所見・リハビリプログラム・リハビリ実施内容

7. 外部への試料・情報の提供

取得したデータは研究用 ID で管理し個人が同定できないようにしたうえで、共同研究機関（大学）と共有し統計解析に用います。個人が特定される情報は提供しません。対応表は研究責任者が保管・管理します。

8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

当院連絡先：

札幌麻生脳神経外科病院 リハビリテーション部 中川 弘隆

住所 札幌市東区北 22 条東 1 丁目 1 - 4 0

電話 0 1 1 - 7 3 1 - 2 3 2 1